

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立川登中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に向けて、校内研究に全職員で取り組むことができた。今年度も、全職員で新学習指導要領の全面実施に向けて更に深めていく必要があると考える。 家庭と連携した学習環境づくりにおいて、家庭学習を習慣化させることについては、生徒の学習意欲を高めさせる手立てや、課題の与え方など家庭との連携が不十分である。
2 学校教育目標	自立の精神に満ちた豊かな人間力の育成
3 本年度の重点目標	(1) 確かな学びの充実 (2) 豊かな人間性と社会性の育成 (3) 主体的な活動の推進 (4) 地域との共生と創造性の育成

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上						
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合を80%以上にする。	□教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の推進を図る。							・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○基礎・基本の習得と活用を図る指導	○『めあて』の提示を工夫し、『協働的な学習』を取り入れたことで、自分の考えが深まったり広がったりしたに、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。	□授業づくりにおいて、以下の3点について行う。 1)「めあて」の板書については、生徒たちが理解できる具体的な目標にする。 2)「協働的な学習」については、話し合いの目的や進め方、時間などを示して、主体的に学び合わせる。 3)「まとめ」については、「めあて」と対応したものを明確に示し、納得できるようにする。							・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○家庭と連携した学習環境づくり	○平日の家庭学習時間が2時間以上になる生徒の割合を65%にする。	□学活において、自分の学習方法や計画について検討改善する機会を学期の当初に年2回設定する。 □生活習慣アンケートを行い、改善点を見出し、その対策について全職員で取り組む。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全学級「道徳」の授業を保護者等へ公開する。 ○特別の教科「道徳」の指導法に係る研修会を年1回以上実施する。	□道徳の授業年間35時間しっかりと教師が取り組む。 □講師招聘による「考え・議論する道徳」に関わる職員研修会を行う。							・道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員の割合を80%以上にする。	□早期発見・早期対応できるように、生徒の変化や様子について、共通理解する会議を月に1回設ける。 □いじめの対応についての研修会を年間1回以上行う。							・生徒指導主事
	◎生徒が夢や目標を持ち、の実現に向かう教育活動の推進	○将来の目標や夢を持つ生徒80%以上にする。	□1年生においては、職場見学を実施する時に、2年生においては、職場体験を実施する時に、3年生においては、3年生を中心に全学年において立志式を実施する時に、将来の目標や夢を確立させる。 □1月に、全学年の生徒に今年の目標を決定させ、夢を実現させるためには、どのようにすればよいかを具体的に確認させ、1年間の見通しを持たせる。							
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食を毎日食べている生徒の割合を95%以上にする。	□朝食の大切さについての学習や掲示板などによる啓発を学期に1回以上行う。 □月ごとに食育だよりなどで家庭への協力を呼び掛ける。							・食育・給食担当
	○部活動の推進	○「部活動が充実している」と答える生徒の割合95%以上にする。	□顧問・外部指導者・保護者との連携を密にし、部活動を充実させる。 □臨場による指導を増やし練習の質の向上を目指し、主体的に練習に取り組むよう指導を行う。							・体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	□提示退勤日、学校閉庁日、部活動休養日の設定する。 □これまで作成された電子媒体の有効活用を行う。 □時間外の時間について、月の途中で振り返りを行い、具体的な手立てを考える時間を設定する。							管理職
	○教職員の連携促進	○明るい職員室づくりを目指し、使命感と情熱にあふれ、教師力の向上に努める職員集団を目指す。	□朝礼や業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報を共有し、チームで協力して業務を遂行できるようにする。 □時間外の時間を削減するため、会議や事務の効率化を図る。							管理職

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫						
○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	○ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫	○タブレットPCを使った学習時間(スタディサプリ)を年間100回以上行う。	□タブレットPCを使ったスタディーサプリの学習については、掃除終了後に全学級確実に行う。 □電子黒板と生徒用タブレットPCを活用した授業研究会を実施すると共に、有効活用について研修を行う。							・情報教育推進教員
○地域と学校の協働による学校づくり	○地域と学校の相互の関わりを深める教育活動の推進(コミュニティ・スクール)	○地域人材を活用した授業や行事を年5回以上実施する。 ◇情報公開を推進し、学校HPの更新回数を100回以上行う。	□学校運営協議会を開催し、地域人材を生かした教育実践ができるように、連絡調整を密に行う。 □学校HPや配信メールにより常に新しい情報を豊富に提供する。 □学校だよりや学級だよりを定期的に発行する。							・教務主任 ・教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--